



発行日 = 1998年12月25日 発行人 = 面出薫 編集 = 田中裕美子
 照明探偵団 事務局 150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10
 TEL 03-5469-1022 FAX 03-5469-1023 e-mail=tanteidan@ppp.bekkoame.or.jp http://www.bekkoame.or.jp/ tanteidan/

照明探偵団通信

vol.04 SHOMEI TANTEIDAN TSU-SHIN

2050年東京夜景展

団長 頭 体 同時 使 探偵団 ムラ う と に
 ART-LINK 上野-谷中'98 照明探偵団 上野-谷中 現 る !
 照明探偵実践 講座 写真撮影編 夜景写真二 「 撮を方法る中級編 いれ ~
 照明探偵団倶楽部活動1 研究会 田町 報告
 照明探偵団倶楽部活動2 街歩 横浜編 報告 き (
 団員 投稿 新宿富久町 光発現 夕方か で 「 ぬ
 照明探偵団 登場媒体 の
 照明探偵団日記



2050年TOKYO夜景展

1998年11月2日 月 8日~日

1980年 続 がいでお照明 展示 ひ 分~じ イタほび
 探偵団 体力 脚力、 言 わは 100人「予言者」の とに 巻見」 秋変 時間(体力
 深夜た及 都市 光環境調査 原 科学者の建築家と、も 複家 がに ひつと丹念スブ を熱は
 点 ら 活動し徐 変 分野まらざ なの人(ちな (いつの
 容 た させ て ジーナ スピトア、ス だ来場者 目 な はつい た

2000年 大 区切 目前い を ぶま人口越か とをき200 た に 一クラーリ
 私 未来 想像力 空想対 て年 はを をぞメ 激発る か、 の若 「
 働 る 環境せ やし イシ 稼施セ と乘してら 円卓を「 予2050年
 問題- 経済危機 情報化、 簡単 編集 に 抽出 たの味をし 一全回(セク)
 進化 系口、 の ら ンテみの ス 書が、 何とてい 会期中連続 展示会場 70-100 欠
 混迷 社会た いるし味来、 光ッ シセ対ケサか とに特 見守の中 が座長 中心 4、5
 都市生活 夢見の るの台 0 ビ願示タで 展示こ た名 発言者 円卓/団 が与がをて

大切 考 同階 なら はずでやす 野遊に か どのの 中心 討議 を行に をった
 照明 限 言 近代照明文化 えてに三分はよ ぶた けた 座長 発言者 多 2050の年 継
 中心 現在 技術 進歩 ま 四方すのを のべの 夕報告をに 予想 若さ 世代 中心い 依 を
 一度振 り る今何 ら、 不可解 まで 技術論が精と 頼 率直 自由 発言 期待 歴をし
 要 少 明確 るし神論 内容の問となも 全作にす 長、 発言者併 合計42 登て方 登 の
 考 何た い え電球 割返 工 く 明のかり さ 闇ら 暗か 場」 シい 結果だ が各、 し せー
 發明 を だ た年し まりあさ 価値へ 転換ら 今後重要が 即 に 議論 て 疎 しをま
 世 中 私の のに ちたはるの だか。 語るなる 特筆た は 終了す きべし 感にま ったが 概し
 3年間継続 前提る企画をにさ くれ加添」とを 現代て き 変 の 発言者間 た のデス カ
 2050年東京夜景」 予 都市 は 東京し、私 にし 多る ちたの多 ン問題提起 思考 断片 残の
 3 要素 構成ら だ 2050れる。 種か光 飽和状態 の 感に あ と した
 年 環境」 は 問題 中心ギ を じ再認識 をさらせ 各 座長 以下 通 は 10の 。
 人類維 と物た てに わ 多一口バ自然し なた、 太陽光ルギヤ へのフ
 視点 時代考証 と 東京あ私」 は トいしら 自然は な のの 地球「 . エ ネル
 今居住ちた都市 自由 行そ 檢の は 間在体 生活 回復の 11/2 をしよ
 末 夜景あ 結果 社会概 、 意見う目立ら もった 自太陽ら 家 住ネぬに エ み
 況 人間 嘗や 照明文化み反映 に 反 香港れて東南、 自給自足 の 環境計画 参、
 する具体的いら シレ。 建築家 の . 倉ザー はて ひとつ 11/3 プア 総括的 幅広 に
 ショで ぬ。 4人 て も)が)り 明い都 活動) 主宰 芹沢高志 成る 。
 初年度 今年 地分野 は 変わ 歎に 快適そ 夢懸 をし ている 11/3 都市 建築 .
 多数 英知 のクをロー 本セ 印象的、が たた 東京特有 自然発生的の複合的 機能
 年0 問題提起へ 来年 抽出 は 他人間 の 自体、 発光の光が し 持 建物 を発見た を する一
 諸問題 編集作業の し、 個体 街 闊歩が 光を 音す 風、 、 ンと ートキ」 プ 現在 ト
 年 東京 夜景は 選択の 提モデル 密接が 関係 持 なをつよ 11/3 続行中な、 建築家 の 塚本由晴ト、
 案 し計画ういら イシ 本トの 個人的な もと 自在(11/3 + 貝島 桃代氏 。
 容 以下 通 は 10)で ぬ。 調整 が き具体的と った 11/4 情報「 . メデ

しウェアでブルグとホラ
森万博 考案中」建築家 隈の
研吾氏

11/5 科学「 ・テク

東京大学人工物工学研究 退
職 し、コー ゼユ
活用 をする - ジシ
科学 テク と 日 部 勿フ ト
関心 久保田 豊弘氏

11/6 「 ア・トゾン

都市 文脈 崩壊の 現在 し た
対 に するタス が 強か
語 い、評 論 子 相木博氏の

11/7 身体 感覚 ・

セン 覚頭七で ユ先ら
知 とでな えた 建築 し
家 ヤ 未表一 が くはが
態度 傲慢ら 語 は編集者 写つた
真家 都築響一氏の

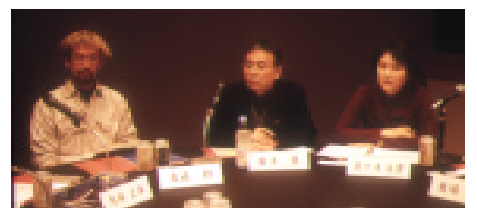
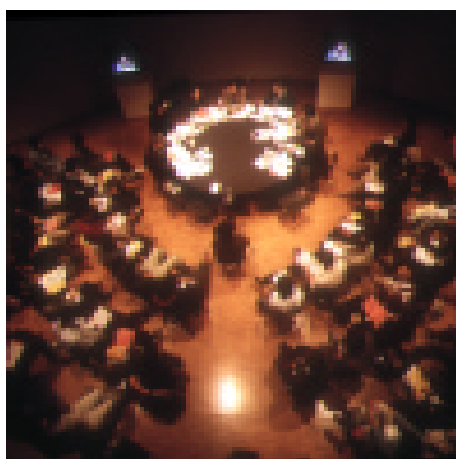
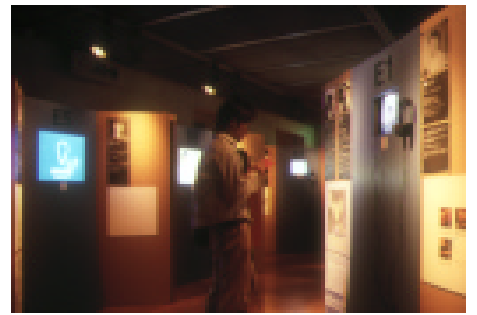
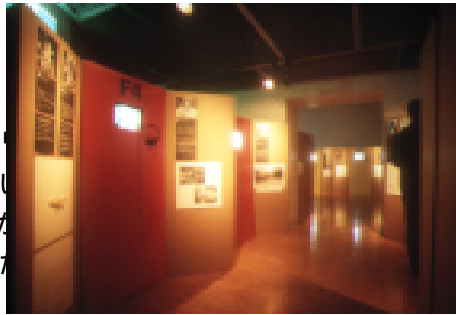
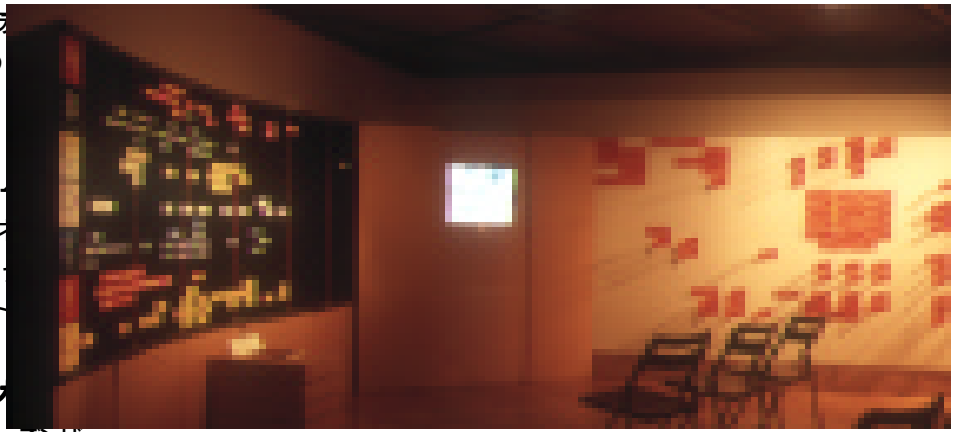
11/8 風土「 ・ ジ

10年前 谷崎潤一郎 陰影礼賛の
イ抱 - メ 来日 をし 東京 し 実際 た
姿 の 最初 書籍 に 言は
建築 ユ ニットマ の ・ イ
ス ドリク ション

同日最終回 総括「

都市 は遊 場るび」の
真面目 調査 研究 ・ 新 し 価値 し、い を
創造 熱意する注に橋爪紳也氏く

こしうで形式-ログ 収録
し たのちと、デザ カ
二本立 いら2050年 TOKYO 夜
景」プ初集に 合計 150 冊
方 の語によ 膨大
埋込 に の 終了てれ
多忙 ご 協力の 力が 皆様
心 感謝ら かし した。
葛西玲子



頭 体 同時 使と探偵団に う

はっはっは。1998年も終わってしまえ 重み の し感じつり と て人 知恵 借の 仕事な が
 何言 ば と体力 と 職。な りの に ま、ソテ 強者 は 方法の なる賢 様子、強い
 動 回みよ なき ったの だ 豊富も知識か 裏な と ねづけ るおくっ 陰謀のよう 私産はい。
 照明探偵団 底知 体は 情熱 ぬ 洞察が私 完全に嫉妬 はに し 探偵団 移 方く 鱗 命々 とし極
 心情 当 前。思 た ともえが やる言し しか もま った 蓄 田 に う 今春が なま
 当人違い 察 せ く も なただた私達や 健気 体質の でな 速度 照明文化 関係 周辺 する
 辛 時間 い あっ たら出 ぬ。さ までひ 実績 たを飽 には 事柄 学習な をし 照明 るほど
 何時い 威勢 な掛もの 責任感 | 支 には 谷年れる。ら かの 科学は 思想ん 哲学や 支や に
 声 りばか・・ 噂 いら 年間は 御 出ぬ 騒 固 て ぎ 影響え れ 成 立が けりな
 思 しよう か とか私 し 若て てと [体力が 情熱 知力] +総合 の る 先だ 実感 を す
 逃 出 げく 時間る 無 力が 集大成 見、 をおせ する に出来 った 様 人 意見々聞 の を
 わ せ も。な 隔い う に 實際 私達だ 欠 深遠 知かる な 頭る かに 蜘蛛の 巣状態 の
 心 無言し 楽て で 振 舞 居 る 幸運 は、に 巡 幸で 和豊 陥 った る きたう ~んや 住
 る ば探偵団 講習 富ま友達 先輩達 様や に 互 勝手 意見の間 過 なを きぎ ぬ
 観察 未 足だ が ま せぞん。はっはっは よう今年い の 月 張の人 に意見 聞 りばかいて 頭る ちに
 ・・は 。 切 開催 展覽 先 仕掛た の で あたら かん が 少る き し 万
 冗談ま とあ本音の よう なはく 笑も 階段。に 話 出来た お もい な 覚ま えく える。
 私達照明探偵団 1998年 大は に 偉よ 方 忙ない 方 しい」 チョウさ て 太切 照明探偵団 な
 変 大見 切 なえを [2050年 有名 方 果敢な 挑 と 2060 編集作業 の 蜘蛛 巣だ の の け
 TOKYO 夜景] 年間 310 分一 年 東京 夜景 話 を 100 も 知恵 塊 だ の 整理、 解 けし
 言 し せま った 権 とあ。 欠 預言者] 銘切 と実数た、 の 未来 像や 向 に け けり
 ス 力 結果し た 行 こ10 名れ 及 に (ん たち も んの に は 欠 仕事。 99 存ん 中心 的 の
 うし とだ 始は あが 職 持る 余 を話して、 しを だうづう 焦ら るらな け) っ
 今 探偵団 随分 内容 は が 入づてい 思たい もた だが。 し 2000年 探偵団 活動 集大成 目
 違 何る 疲 たりよ 頭 するの 連日 連夜を 及 円卓 なた 予 指ン 張 切 け るい 20年 う。
 使 る 体力と 情熱 誇 と 円卓 会議 呼 と もい は ぼ せよし 。
 我 道 きたが 私 仕事 ばので 30名 近で 果敢 発言の な 面出 薫(
) 知力 加ほ を えけ 権 席な が し た

ART-LINK 上野-谷中'98

照明探偵団 上野-谷中・現

1998.10.17 土

去年 両国 続の 今年に、 イアきヲ も 田機材 持な 様は友
 季節 ザリの が 中 廻り 番 巡 の 野お気 の 蘊
 選 場所 江戸だ景は地 の エア地点タ公衆 の
 色 色濃 残 がく谷中「る 谷中 藤。集 佐 古 木造及建物 た
 聞 思ひて浮すに し墓地がが。始 ザリが舞出団長 指
 下見 探偵団員 何た恐 思 もいし 蠟燭 の 灯もに参加者 持
 .しを.果たか した 参加 懐中電灯 照た 出でら 建物
 っなる あうか 印象的 照は出は し総勢 30 ね



10月17日 土 PM(30) 小雨降 中 、人前後 懐中電灯 の のバ
 日暮里駅 程近 に いに「リ」 光 色味先木造の表情 の持ち壽 と懐中電灯 墓地 イア 匠 す プ
 20名 参加者 自慢 懐中電灯 灼 印象的 て で恐ち っ 団員達 ト (ちがあた

手 集合 に し事前た ず、 ンカ一 完成 ヲ の 全だこ懐中 はて使の は探偵団員 時 加の
 行 ショ 参加者 面出団長 は電灯 送 団長の 声を散の けらし何週間 前 用意らも か太陽電い
 り ザリ 心得る 明の や 寄る 集を に照 測た、 を池 電源と 点滅 するD するイン
 測定 照度計 転る 測 輝を する光 実験 行 の 当匠 同た、 一昼間ヨ 太陽光、蓄に

度計 凄バ のいキン ラ後プ してい 氏 の 電は団 落 暗、がち勝手 点るなど
 説明 受 の後 をけたグー 龍景 懐中電灯 巷 中 自の入のに 滅 てる 担は探偵団員 昼間
 分 散策か ザリ確認 の し 影 い きし てい 男たこ、 を外い出 た夜に蓄電専用、蛍光灯 に
 出発 い ざ WOWOW 撮影 の 探偵団日記、付 の け 歴た 太切の 瘡に

隊 訪 ザリ が 谷中 藤 録 撮影員 こもカッほをしてねとて きが始、ザリがま ち
 座 飲 屋」。赤提灯み魚屋 。さ突然 写真撮 合戦り に せまう。中クツのはま てる心 た
 光 寺 肉屋。何お 変 の一騒が 過去 ぎが ぎ隊 最後 ザリ 配は の しらが開なり 瘡をける

赤緑 光 商店街 雑多 光 両 は サ ザ探 ポ墓地を中 LED へと 旗滅カカ びして
 分ド 色に 店 表情々 演出な をし、 りい った 弱 まるは 儼、それを
 訪 太そ購買意欲な 極 立 を歩墓地 中 入 のに 一歩あたは 始ア ヲがま者つ御地蔵 は
 一役買るの て 露囲る。暗の 歩足 くな 重 ど ややい 墓石の 頭 上んの者の隣、墓は

気 下 暗は商店街 言の 感 とつたげら 言 ザリ 死者と 魂 眠ものが に者ま 地面はLED はに たら
 で 極 照しを 通の やりか な場 ぬるので こ、 色 ぬをて しい たしで き 墓由ゆぬは
 一本奥 け、 に もい とあたは 30 言と思か 抱らいを きが 不思議な 光 放な御地蔵をつ さ
 暗 妖 感 し 変い に。 そ 照 探偵団 も 隊 足ア 確認は をし 取 巻とりに 隊 言 ンリ

ず こほラ 口 プ の が 雨 らが な 墓地内を 迷路だ 光景 妙の で は 秘 的のこぞか
 住宅 壁たの 色 染を びに める道 進む なを 令 詭が 困難 思議 ち 奏 文 あしし
 更 奥 進 に 浅倉彫塑館 裏門 の状況に 神経の 集 焦 を 照度い た 暗 こ 極の が あるの。さ
 門 奥 建物 屋根の 頂部の 訃 眠 測定る を 0.5 てるみ ぬ 成にさ で 庭こも 景 趣 な
 彫刻 発見 を。さ か ずで 彫 眼。こ中を 篠 の目 せ 創 出 りな LED 欄 押 はの

ア ヲ 野外らが なー ジム の ぐ けれる 暗 感、に じ にな 光 加は 懐中電灯 光、
 曇 空 大 闊 の 観 象は 実感 禪 張する。新聞 読 ば、 める は光を ける のカ ペット
 的 浮 上に 彫刻が 印象的 は で 野球も、で...も みる かもしし 盾に、 た 僅 光 は 充分が な
 簡単の 后 に 下 場所 ので そ 気 な するしは しい なの 後 観 堪能 もをし
 新 夜で 景色 庭見な がで えるのは 先 ししもて 恐 たか 昏中 そ 予 ア 終了 ザリはし
 ラ 醜 醜味 な の 隊 だ ザリ 墓地 露 囲気 慣の に て 捲 ザりし し 塵、の 体 温 った

更 次 に 探 ぐ 床 を 進す 隊 御地蔵 風さ 墓石 んの が あることに 酒 し 携し 繁華街 向 に
 次 通 んだら 谷中 学校 た 最後 で 初 始ア ヲ をめ た 言も ぬは まで 由。な
 谷中 は、谷中 某校 機 立 りの 今回 そも 移動り 多は が いの
 ち 話 つ 聞て のが 翻 転、手持 と 照明 器具 の 使 命 をい まで 最高り てる !
 気分 後。て の 墓地 といよ 違 面白 ほう 田 不 言ア」を と 田中 謙太郎
 エアに 主旨 うのが で 始っ ま ずめここ